

4 坂のまち 今熊野の 目指すまちの将来像

「みんなが 安心、安全に暮らせる 坂のまち 今熊野」

みんなで少しずつ協力しながら安全に、
そして、若い人も、高齢の人も、
安心して楽しく暮らせるまちを目指していきます。

建物の活用

いろんな世代へ向けた 建物の活用

近年、子育てに適した住環境を求
める子育て層の転入や、近居を
望む子供世代の転居も
増えています。

使われていない建物を、子育て層
向け、高齢者向けなど、いろんな
世代のニーズに合わせた活用を進
めることで幅広い世帯が集える町
を目指すことも可能になります。

- ▶基本方針：いえ P25
- ▶基本方針：みち P27

例えば…

- ・陶芸を学びに
短期滞在できる施設
- ・共同菜園のある
建替えのできる路地
- ・路地空間を活用した
子どもを遊ばせられる住宅
- ・年齢に合わせて学区内で
住み替えできる仕組み

阿弥陀ヶ峰

学生のまち

京都女子大学

地場産業 活性

例えば…

- ・伝統文化に触れる
工房空間の充実

元今熊野
小学校

商店街の活性

いろんな世代のニーズに
合わせた店舗の展開

住みよいまちを求めて今熊野へ

▶将来像へ向けたこれからの 20 年 P49

地域の拠点

元今熊野小学校を地域活動の拠点に

避難所である元今熊野小学校も、普段から集まる場として活用し慣れ親しむことで、災害時の避難もしやすくなります。

例えば…

- ・子どもたちが学び宿泊できる施設

例えば…

- ・地藏盆の復活
- ・子どもが遊べる小規模グラウンド

例えば…

- ・日頃から足腰を鍛える！
- ・坂のまちマラソンの開催

坂とつきあう

坂のまちで上手に暮らす

「坂が大変」と言いながらも、その環境と上手に暮らしているのが今熊野学区の特徴です。坂を楽しみながら、まちを知り、生活の中で災害にも備える環境をつくりましょう。

▶基本方針：ひと P23

普段使い

普段使いもできる場づくり

防災ひろばも、例えば「青空マーケット」や、子育て層の住民が求める「子どもが安心して遊べるまとまったスペース」やなど、普段から住民が活用し、使い慣れた場所であれば、いざという時も迅速に行動することができます。

▶基本方針：まち P29

広い連携

学区内外との広い連携

学区内にある店舗や事業者だけでなく、近隣の月輪学区、一橋学区とも連携することで、これまで以上に広域的な対策を進めていきます。

例えば…

- ・商店街との、災害時の物資協力協定
- ・近隣学区との、合同防災訓練を実施

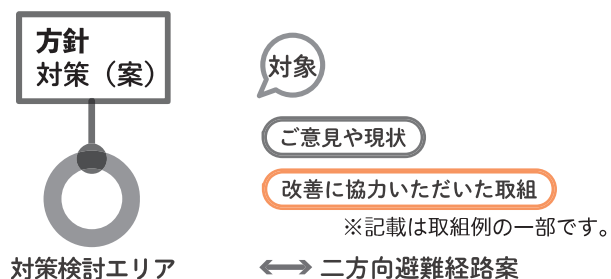
▶基本方針：ひと P23

▶体制・役割 P45

本計画内の地図の凡例

-  幅員 4m以上の道
-  幅員 1.8m以上 4m未満の道
-  幅員 1.8m未満の道
-  袋路（突き当たりが建物）
-  袋路（突き当たりが塀・柵等）
-  袋路（突き当たりがドア）
-  ※町番号（便宜上記載）
地域の集合場所
-  住民がよく利用する道
-  ブロック塀
-  町界
-  広報板

「ブロック別計画図」防災対策について



防災まちづくりにおける対策として、学区の現状、地域特性、住民の方のご意見を基に記載しています。学区内で今後進めていく対策のうち、特に路地単位・町単位での整備を中心に記載しています。

地図に記載の対策以外にも、お住まいの家の管理や修繕、耐震化・防火対策など、個人単位の対策も進めましょう。詳しくは、本編「基本方針」「ブロック別計画図」に記載しています。

※地図情報は、防災まちあるき時の情報を基にしているため、現状と異なる場合があります。

※記載の対策案等は、防災まちづくり活動の一環で行った防災まちあるきやワークショップ等で、参加者の方からいただいたご意見を基に記載しています。